

当院で臨床実習をされる学生の皆さんへ 感染予防オリエンテーション

社会福祉法人^{恩賜}財団^{済生会}滋賀県病院 感染制御室

当院での実習において感染症から自分自身と患者さんを守るため、以下の感染対策をお願いします。実習生自身が感染源とならないため衛生面を考慮した身だしなみをしましょう。

髪：前髪やサイドの髪が顔にかからないように整える

爪：短く整える

手：指輪・アクセサリーは装着しない

衣服：アンダーシャツは半袖から5分袖まで

- ・インフルエンザやB型肝炎などの予防接種を事前に確認しましょう。
- ・自身が感染源とならないために体調チェックを行い、体調不良時には教員等に報告し、学校保健法に準じて適切に実習を休みましょう。
- ・実習中の体調不良時はすぐに教員等に報告し、他の学生や患者さんとの接触を避けましょう。

院内感染防止対策

1. 標準予防策 (スタンダードプリコーション)

全ての患者の血液、体液、分泌物、排泄物、粘膜、損傷した皮膚は、感染の可能性があるものとして、全ての患者に対して標準的に行う感染予防策です。

手指衛生

- ・手が目に見えて汚染しているときは、石鹼流水で20～30秒かけて手洗いをする。
- ・手が目に見えて汚染していないときは、擦式アルコール製剤による手指消毒を15秒以上擦込む。
- ・手袋を外した後に手指衛生を行う。
- ・アルコールが効かない感染症 *C.difficile* などに接触したときは、石鹼と流水で物理的に洗い流す。

擦式アルコール製剤による手指衛生 (全工程時間：20～30秒)



十分な量の擦式アルコール製剤を手取る。手のサイズはそれぞれ異なるため、20秒間の手指衛生に適した量を取る。



右手の指先を、左手のひらに前後・回転させて擦り込む。反対の手も同様にこする。液量が多い間に、爪の先など洗いにくい指先に擦り込む。



手のひら同士を擦り込む。



指を組み、右の手のひらを左手の甲に擦り込む。反対の手も同様にこする。



手のひらを合わせ、指を組んで指の間を擦り込む。指を組み替えて、むらなく擦り込む。



指の背に擦り込むために、両手の指を連結して、指の背を反対手のひらにこすりつける。



右の手のひらで左の親指を握り、回転させながら擦り込む。反対の手も同様にこする。



乾燥させれば終了。

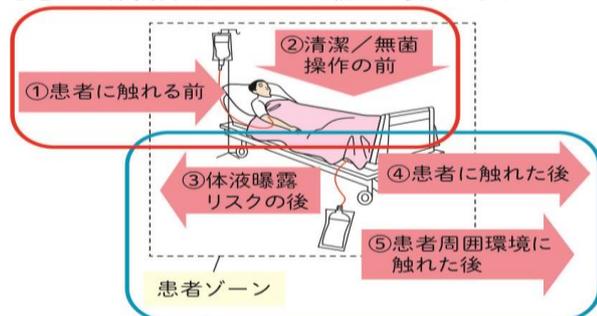
WHO 手指衛生5つのタイミング

患者と職員を病原体から守るため、適切な場面で病原体の伝播を低減させるための手指衛生を実施することが重要です。



2つのBefore

患者への病原体伝播のリスクを防ぐ必要性を示す



3つのAfter

医療従事者と医療エリアへの病原体伝播のリスクを防ぐことを目的とする

呼吸器衛生/咳エチケット

咳をしている人には、可能な限りマスク着用を積極的に勧めましょう。

呼吸器分泌物に触れた後は手指衛生を実施してください。



鼻からあごまできちんと覆う

2. 個人防護具 (PPE) の正しい使用

マスクの着用

患者対応時にマスクを着用します。特に、飛沫感染のリスクが高い場合には、サージカルマスクや N95 マスクが推奨されます。

手袋の使用

体液や血液に触れる可能性がある際は必ず手袋を着用しましょう。手袋を外す際は、内側を外向きにし、触れないように注意して処理します。

ガウンやアイシールド

汚染のリスクが高い場面ではガウンやアイウェア（ゴーグル）を着用します。処置やケアを行うときに使用します。

3. 針刺し事故防止と針刺し・切創・皮膚・粘膜曝露時の対応

- ・ 標準予防策の遵守 → 注射の刺入・抜針・採血時には必ず手袋を着用してください。
- ・ 針を使う場合はリキャップをしないで下さい。
- ・ 鋭利物は素手で触らず、スタッフに報告して下さい。

感染性廃棄物と非感染性廃棄物の処理

感染性廃棄物とは

血液の付着や感染の恐れがある廃棄物については感染性廃棄物として取り扱います。ハザードマーク入り容器を使用してください。

感染性廃棄物

	液状または泥状のもの (血液など)
	鋭利物 (注射針、メスなど)
	固形状 (ガーゼなど)



非感染性廃棄物

医療機関などから排出する廃棄物で血液が付着していない物
例) 輸液ボトル・医療材料の包装など



一般ゴミ (可燃ごみ・
非可燃ごみなど)

廃棄量は容器の7~8割まで

実習終了後の感染対策

退勤後の注意

施設を出る前に手洗いや手指消毒を行い、着用した個人防護具は適切に廃棄してください。

私物の管理

実習に使った衣服や持ち物は自宅で洗濯し、病院で使用した物と区別して管理します。

感染対策は病院内での安全を守る最も重要なポイントです。実習生として自分と患者さんを守るために、上記の対策を徹底し、日々の実習に役立ててください。万が一、疑問や不安があれば、必ず担当者や指導者に相談しましょう。